



■ 聖路加看護学会ニュースレター

第13号 平成15年2月10日 2003.2.10 No.13

過去のニュースレター

■ 目次

第8回聖路加看護学会学術大会に向けて

大会長 中山 洋子

第8回聖路加看護学会学術大会ご案内(第2報)

平成14年度聖路加看護学会学術交流会

- 癒しの技術
-シュタイナーの全人的理論に基づいたリズムカル・マッサージ-
- 人智学の意義
- 病気の意味
- 宇宙が奏でるリズムをいかしたマッサージ
- 実技と質疑応答

Lobby:「臨床の知」の周辺

中山 洋子

お知らせ

- 学術交流委員会から
- 学会誌編集委員会
- ニュースレター委員会より
- 会計から
- 庶務からのお知らせ

編集後記

↑ TOP

■ 内容

第8回聖路加看護学会学術大会に向けて

学術大会会長 中山洋子(福島県立医科大学看護学部)

第8回の学術大会は、「看護の“知”と哲学的基盤」をテーマに聖路加看護大学で開催することにいたしました。看護の“知”の問題というと、中村雄二郎著『臨床の知とは何か』(岩波書店, 1992)やPatricia Benner著『From Novice to Expert』(井部俊子ほか訳:ベナー看護論, 医学書院, 1998)を思い出す方も多いかと思います。人間の行為の中に埋め込まれている“知”の問題です。この“知”の問題は、90年代にはナレッジ・マネジメントとしてビジネスの世界においても注目されています。決して新しくはない臨床知、実践知、暗黙知、経験知、Practical Knowledge, Knowing-howと言った問題をあえて取りあげ、討論してみようと考えたのです。

また、科学のめざましい進歩の中で、保健医療は急速に変化し複雑になってきています。科学は人間が生きていく上で不可欠なものです。科学だけでは人間の生活は成り立たちません。科学と人間との関係、科学と看護の問題を掘り下げるこ

とによって、看護の価値をもう一度見直すことができるのではないかと思います、科学の依って立つ足場の問題、哲学的な基盤を取りあげました。

テーマだけを見るととても固い感じがするのですが、端的に言えば、私が研究の過程で出会ったエキスパートと言われるナースは、看護に対する確固たる考えを持っており、看護に対する考えや患者・家族の見方が、看護の新しい“知”を生みだしていたということに注目したのです。この実践で働くナースが生み出す“知”を科学との比較の中で意味づけることができれば、看護独自の“知”の水脈を掘り当てることにつながるのではないかと言うことになります。

シンポジウムの準備が少し遅れ気味ですが、当日は活発な討論ができるように盛り上げていきたいと思っておりますので、皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

↑ TOP

第8回聖路加看護学会学術大会 ご案内(第2報)

メインテーマ : 「看護の“知”と哲学的基盤」
 日時 : 2003年9月27日(土) 9:00~17:30
 会場 : 聖路加看護大学 東京都中央区明石町10-1
 交通手段 : 営団地下鉄 日比谷線 築地駅下車 徒歩3分
 営団地下鉄 有楽町線 新富町駅下車 徒歩5分

プログラム :
 会長講演 : 「看護の“知”の水脈を探る」 中山洋子(福島県立医科大学)
 シンポジウム : 「実践における“知”をめぐって」(シンポジスト交渉中)
 一般演題(口演/示説)
 最新トピックス

演題申込締切 : 2003年3月31日(月)
 抄録集原稿締切 : 2003年5月31日(土)
 演題申し込み等の問い合わせ :

〒960-1295 福島市光が丘1番地
 福島県立医科大学 看護学部
 第8回聖路加看護学会学術大会 事務局
 FAX 024-547-2346

詳細に関しては、TEL&FAX024-547-2390(大川)、024-547-2391(粟生田)まで

↑ TOP

平成14年度聖路加看護学会学術交流会

●癒しの技術

—シュタイナーの全人的理論に基づいたリズムカル・マッサージ—

大住 祐子氏

平成14年6月8日(土)に、聖路加看護大学301教室で開催した第6回聖路加看護学会学術交流会では、大住祐子氏をお迎えして、「癒しの技術—シュタイナーの全人的理論に基づいたリズムカル・マッサージ」をテーマに講演および実技演習をしていただき、50名の参加者がありました。ここに概要を紹介します。

病を癒すということはいったいどういうことなのかを考えてみたいと思っています。それを考えるには病とは何か、健康とは何かということに目を向けなければならないでしょうし、そもそも人は何故病気になるのかということが最初に疑問になるかもしれません。

さらに、突き詰めていくと、人はなぜ生きるのか、なぜ死ぬのか、私たちはいったいどんな存在であるのか、ということに思いをめぐらせないと答えは見つからないのではないのでしょうか。そのような中からこのマッサージの意味を感じ取っていただければ嬉しいです。

「平成14年聖路加看護学会学術交流会ご案内より」

●人智学の意義

ルドルフ・シュタイナーが提唱した人智学は包括的な人間学である。現代医学は遺伝子研究に代表されるように、人間の機能面に着目し、視野を限局して追求していく傾向にある。しかし、人智学は人間を宇宙の中の存在としてとらえ、広い視点にたち、哲学や宗教学が捉えている人間の側面をも含めた人間認識である。

科学的根拠で証明できる方法にとらわれすぎると、かえって全体像を見失うことになるのではないかと。そのもののありのままを見ると、もっといろいろなことがわかるのではないかと考え、ドイツにて人智学を学んだ。

↑ TOP

●病気の意味

小児期の感染症は人間にとって終生免疫を得るという意義がある。それは自分と自分でないものを区別するシステムを作り上げること、すなわち自己を確立し、他者との程よい関係を保つことを支えることだといえる。

成人期の病気では、症状がでるとからだを横たえて休養する。休養をとることで、自分のからだを作り直す時間を得ているのではないかと。そして自分の中に新たな変化を成し遂げるのである。

↑ TOP

●宇宙が奏でるリズムをいかしたマッサージ

自然界では何かが壊され、何かが作られ、刻々と変化している。そのバランスを崩したときに人間は病気になる。このバランスは宇宙のリズムと関連していると考えられる。リズムカル・マッサージとは相手の持っているリズムと、宇宙のリズムを向き合わせ、新しいリズムを作り上げるマッサージである。決して自分のリズムを押しつけるのではない。

↑ TOP

<実技と質疑応答>

聖路加看護学会学術交流委員会

まるで音楽を奏でるように、しなやかにそして緩やかに両手が宙を舞った。参加者は魅せられ、その手元に集中した。心臓にむけて、血液、リンパ液の流れを促すようにマッサージする。頭痛をきたさないように、肩から四肢にさげていくように方向には注意する。分断されないようにらせんを描くようにマッサージする。胸は3分割させ、四肢は内側の敏感な部分を受け、大きく作用させる。脊椎は両手でタンデンバーム(もみの木)を作り、交互にらせんを描く。太陽や月のリズムを読みとり、相手のリズムと対話しながら、マッサージは終了した。被験者は「連続して触れられているので温かった。」という感想をもった。参加者からは、自分で実施する際の方法および注意事項、オイルの選択および使用量などについて質問が出た。

↑ TOP

Lobby:「臨床の知」の周辺

中山 洋子

第8回の学術大会のテーマの「看護の“知”」の問題を一緒に考えていただくために、図書を紹介いたします。

1. 哲学者である中村雄二郎の「臨床の知」について
 - 中村雄二郎:臨床の知とは何か, 岩波書店, 1992.
 - 中村雄二郎:中村雄二郎著作集 第2期2, 岩波書店, 2000.
 - [第1編 臨床の知とは何か(“科学”とはなんだったのか), 第2編 臨床の知・各論(学問の新しい動向—“臨床”の意味を問う)]
2. 暗黙知について
 - マイケル・ボラニー著, 佐藤敬三訳:暗黙知の次元 言語から非言語へ, 紀伊国屋書店 1980.
 - 野中郁次郎・竹内弘高著, 梅本勝博訳:知識創造企業, 東洋経済新報社, 1996.
3. 実践知について
 - 池川清子:看護—生きられる世界の実践知, ゆみる出版, 1991.
4. Practical Knowledge について
 - パトリシア・ベナー著, 井部俊子ほか訳:ベナー看護論—達人ナースの卓越性とパワー —, 医学書院, 1992.
5. 科学論について
 - 金森修・中島秀人編著:科学論の現在, 草勁 書房, 2002.

【一寸一言】

臨床の知について書物を紹介しましたが、実践知、経験知、暗黙知などは、対概念です。例えば、実践知や経験知に対しては、理論知が使われます。また、暗黙知に対しては、形式知 という概念が使われています。その他、Practical knowledge に対しては、Theoretical knowledge、Knowing how に対してはKnowing what が用いられています。

↑ TOP

お知らせ

★学術交流委員会から

平成15年活動 —学術交流会の開催

テーマ:「あなたのひとことが相手を傷つけていませんか
一心に傷を負った人と向き合うために—」

講師: 大久保恵美子氏 (社)被害者支援都民センター事務局長、保健師

日時: 平成15年6月7日(土)13時—15時

場所: 聖路加看護大学

主旨: 看護職は事件や事故の被害者と、さまざまな施設や地域で最初に出会うことがあるが、被害者はどのような思いでいるのかをどこまでわかっているだろうか。励ますつもりの一ひとことが相手をさらに傷つけていることに気づいているだろうか。このことはあらゆる実践や教育の現場におけるコミュニケーションにも通じるものである。人との関わりのあり方を考え、またさまざまな組織づくりをしていく看護職の役割機能の拡大に向けた思考も深めたいと思う。
多くの皆様のご参加をお願いします。

メンバー 太田喜久子(委員長)、秋山正子、鶴田恵子、
中村めぐみ、野崎真奈美、横山美樹

★学会誌編集委員会

2003年1月31日をもって第7巻1号の投稿を締め切りました。ご投稿、ありがとうございました。現在6月の発行に向けて、順次、査読をすすめております。2号は、例年通り、9月に学術大会の講演集として発行されます。引き続き、随時、次号以降の原稿を受け付けております。会員の皆様方から多くの投稿をおまちしています。

(委員長 小松浩子)

★ ニュースレター委員会より

ニュースレターは、例年どおり、年2回発行予定です。会員の皆様のご投稿お待ちしております。また、2003年1月23日より、学会ホームページ上にてニュースレターがご覧になれます。

(委員長 田代順子)

★ 会計から

2003年度の会費を納入いただきまして、どうもありがとうございました。
未納の会員の方は、下記までお振り込み下さいますようお願い申し上げます。

年会費の振込先 : 郵便振替口座 00100-8-670371
加入者名 : 聖路加看護学会
年会費 : 5,000円

(会計: 中山洋子、桃井雅子)

★ 庶務から

新体制に変わり、エネルギッシュに仕事を進めています。入会のしおりを刷新しました。
入会ご希望の方にお送りしますので、皆様の周りの方に入会をお勧めください。

最近、ニュースレターの返送が目立ちます。住所やお名前の変更をされたときには、是非とも学会庶務へもご一報ください。

(庶務: 佐藤エキ子、亀井智子)

編集後記

- インフルエンザが猛威を振るっている今日このごろですが、今号のニュースレターはいかがだったでしょうか。学術交流会のテーマにも登場した「癒し」、私にとっての「癒し」とは何だろうか、と自問自答してしまいました(キーワードは'S')。皆様にとっての「癒し」は何ですか?(Y.S)
- 次回の第8回学術大会のキーワードは、看護の“知”。とても興味深く感じ、有意義な大会になることを楽しみにしています。インフルエンザが流行っておりますので、くれぐれもお体には気をつけて下さい。(K.S)

↑ TOP

▲ ページトップへ

学会について | 入会案内 | お問い合わせ | よくある質問 | 学術大会 | ニュースレター | 学会誌

St. Luke's Society for Nursing Research | サイトマップ